○外務省告示第二百一号

国際連合安全保障理事会決議第千五百九十一号に基づき設立された同理事会の制裁委員会がこれまでに発出した情報に基づき、同理事会決議３（ｄ）及び（ｅ）の規定に定められた措置の対象となる個人の情報を指定する件（平成十八年外務省告示第三百七十四号）の一部を次のとおり改正する。

平成二十七年六月十九日

外務大臣　岸田　文雄

追加・改正項目

平成十八年外務省告示第三百七十四号の別表を以下のとおり改正する。

（別表）

（氏名は名・姓の順に表記）

１．ガアファル・ムハンマド・エルハサン

Gaffar Mohammed Elhassan

（肩書）スーダン国軍（ＳＡＦ）少将兼西部地域司令官

（生年月日）1952年６月24日

（出生地）不明

（別名）ガアファル・モハメッド・エルハサン（Gaffar Mohmed Elhassan）

（国籍）不明

（旅券番号）不明

（身分登録番号）退役軍人身分登録カード4302

（住所）スーダン共和国オムドゥルマン（Omdurman）・エルワハ（El Waha）

（リスト掲載日）2006年４月25日

（その他の情報）スーダン国軍から退役

（指定の根拠）専門家パネルの報告において、ガアファル・ムハンマド・エルハサン少将は専門家パネルに対して、西部地域司令官在任中、ダルフールにおけるすべての部隊への直接的な作戦指揮権（主に戦術指揮）を有していたと述べた。同人は、2004年11月頃から2006年初めまで西部地域司令官の職にあった。パネルの情報によると、同人は、この職により、委員会の事前承認なくダルフールへの軍用装備の移動を（ハルツームから）要求し（2005年３月29日以降、）許可し、国連安保理決議1591のパラ７違反の責任を有した。同人自身、専門家パネルに対し2005年３月29日から2005年12月までの間、スーダンの他の地域からダルフールへ航空機、航空機エンジン、その他の軍用装備を持ち込んだ旨認めた。例えば、同人は、専門家パネルに対し2005年９月18日から21日の間、Mi―24攻撃ヘリコプター２機をダルフールに許可なく持ち込んだ旨伝えた。同人が西部地域司令官として、2005年７月23日、24日のアブ・ハムラ周辺地域及び2005年11月19日の西ダルフール・ジャバル・ムーン地域への航空攻撃を許可したことについて、直接的な責任を有すると信じるに至る合理的な根拠もある。両作戦には、Mi―24攻撃ヘリコプターが関与しており、伝えられるところでは両作戦において射撃を行った。専門家パネルの報告では、同人自身が専門家パネルに対し西部地域司令官として、航空支援及び他の航空作戦の要請を承認した旨唆した。（専門家パネル報告Ｓ／2006／65パラ266―269参照。）同人は、このような行為を通じて、国連安保理決議第1591号の関連規定に違反しており、したがって委員会により指定される制裁の対象とされるべき基準を満たしている。

２．ムーサ・ヒラール・アブダラ・アルナシーム

Musa Hilal Abdalla Alnsiem

（肩書）スーダン国民議会議員、2008年にスーダン大統領によって外務省特別顧問に任命、北ダルフールにおけるジャルール族大部族長

（生年月日）1964年１月１日（他に考えられる生年月日1959年）

（出生地）クトゥム（Kutum）

（別名）(a)（シェイク）ムーサ・ヒラール((Sheikh) Musa Hilal)、(b)アブドゥ・アッラー（Abd Allah)、(c)アブダッラー（Abdallah)、(d)アルナシム（AlNasim)、(e)アル・ナシム（Al Nasim)、(f)アルナシーム（AlNaseem)、(g)アル・ナシーム（Al Naseem)、(h)アルナッシーム（AlNasseem)、(i)アル・ナッシーム（Al Nasseem）

（国籍）不明

（旅券番号）外交旅券番号Ｄ014433、2013年２月21日発行（有効期限2015年２月21日）

（身分登録番号）国籍証明書Ａ0680623

（住所）スーダン共和国カブカビーヤ（Kabkabiya)、スーダン共和国クトゥム（北ダルフールのカブカビーヤ及びクトゥム市に居住し、ハルツームに居住した経験あり）

（リスト掲載日）2006年４月25日

（その他の情報）特になし

（指定の根拠）ヒューマン・ライツ・ウォッチからの報告は、同団体は、シェイク・ムーサ・ヒラール指揮下のムジャーヒディーン及び志願兵の活動が（北ダルフール）地域に展開し、その不可欠な要求を確保することを認めるよう「地区の治安部隊」に命令する旨の北ダルフールの地方政府事務所から入手した2004年２月13日付メモを保有しているとしている。2005年９月28日、400名のアラブ系民兵が、西ダルフールのアロ・シャロー（ＩＤＰキャンプを含む)、アコー、ゴズメナの村々を襲撃した。また、委員会は、同人がアロ・シャロー国内避難民キャンプ襲撃の際現場にいたとも信じている。同人の子息はスーダン解放軍（ＳＬＡ）によるシャレイア襲撃の際に殺害されたため、個人的な流血の争いに関与していた。同人は、大部族長として、これらの行為についての直接的な責任を有し、国際人権人道法違反及びその他の残虐行為についての責任を有すると信じるに足る合理的な根拠がある。

３．アーダム・ヤークーブ・シャリフ

Adam Yacub Sharif

（肩書）スーダン解放軍（ＳＬＡ）司令官

（生年月日）おおよそ1976年

（出生地）不明

（別名）アーダム・ヤークーブ・シャント（Adam Yacub Shant)、アーダム・ヤークーブ（Adam Yacoub）

（国籍）不明

（旅券番号）不明

（身分登録番号）不明

（住所）不明

（リスト掲載日）2006年４月25日

（その他の情報）2012年６月７日に死亡したとの情報あり。

（指定の根拠）アーダム・ヤークーブ・シャント指揮下のスーダン解放軍兵士は、2005年７月23日にアブ・ハムラ近傍でトラック車列を護衛していたスーダン政府軍部隊を攻撃し、兵士３名を殺害したことにより、停戦合意に違反した。同攻撃後、政府軍の武器・弾薬は略奪された。専門家パネルは、ＳＬＡ兵士の攻撃は明らかに組織化され、十分に計画されていたとの情報を有している。したがって、専門家パネルが結論付けたように、同人が地域ＳＬＡ司令官として、同攻撃を認知し、承認あるいは命令したにちがいないと推定することは合理的である。したがって、同人は同攻撃についての直接的な責任を有しており、列挙された基準を満たしている。

４．ジブリール・アブドゥルカリム・イブラヒム・マーヨ

Jibril Abdulkarim Ibrahim Mayu

（肩書）改革・開発国家運動（ＮＭＲＤ）野戦司令官

（生年月日）1967年１月１日

（出生地）北ダルフールのエル・ファーシル（El-Fasher)（北ダルフールのエル・ファーシル・ナイル地区（Nile District））